

男性同性間性的接触による
HIV陽性者における予防啓発との接点と感染リスク行動に関する調査

研究分担者： 健山正男（琉球大学大学院 感染症・呼吸器・消化器内科学講座 准教授）
研究協力者： 仲村秀太、原永修作、比嘉 太、藤田次郎（琉球大学大学院 感染症・呼吸器・消化器内科学）、宮城京子、前田サオリ（琉球大学医学部附属病院看護部）

研究要旨

沖縄県における男性同性間性的接触による HIV 陽性者を対象に感染リスク行動に関する調査を実施し、従来の予防啓発の評価を行うことを目的とした。

初年度に平成 27 年度より開始する多施設による HIV 陽性者アンケート調査の資料とすべく、パイロット調査を行った。これらを踏まえて、規模を拡大し、従来の予防啓発の課題を探り、新たな視点の予防介入方法の開発を図る（3 年度）。

調査対象： 当院に通院する HIV 陽性者で、セクシャリティを MSM と自ら明らかにした者の中で、アンケート調査に協力を得られた 15 人に配布し、回収された 12 人を対象とした。（有効回収率 71.4%）。調査期間は 2014 年 10 月 1 日～12 月 20 日までとした。アンケート項目は全 25 問で下記の 5 群で行った。

1. 回答者属性に関する質問群、2. 感染告知以前の受療環境に関する質問群、3. 感染告知以前の予防知識・認識・行動に関する質問群、4. 感染告知以前の情報入手経路に関する質問群、5. 予防情報への暴露状況に関連した質問群とした。

結果： 感染した時期は 20 代が最多であった。感染した地域は不詳が 33.3%であった。セックスパートナーと出会うために利用した手段はハッテン場(33.3%)、ゲイバー(50.0%)、ゲイ専用掲示板(33.3%)であった。感染が判明する前の HIV 受検歴では 8 人(66.7%)が検査歴無しで 7 人(58.3%)が現在の HIV 検査は受けにくいと回答していた。HIV 感染が判明する前に最後に病院に行った理由に、HIV と関連した疾患と回答したものは 8 人(66.7%)であった。受診した医療機関で HIV 検査を勧められたのは 7 人(58.3%)で、4 人(33.3%)は勧められていなかった。4 人が AIDS 指標疾患ではなく性感染症などを理由として受診していた。急性 HIV 感染症の記憶があるかの問いでは 7 人(58.3%)が覚えており、5 人が実際に医療機関に受診していた。自分が HIV に感染する可能性について、全く心配していなかったのは 5 人(41.7%)であった。HIV 関連情報の入手経路に関する質問群ではネットや掲示板と MSM の商業施設・イベントが多く、両者で過半数を占める一方、テレビ・新聞・ポスターは訴求効果に乏しい結果であった。

A. 研究目的

沖縄県における HIV 感染者の増加は 1999 年より顕著となり、2007 年の人口 10 万人あたりの新規感染者は 2.58 人と全国で 2 番目に高い陽性率となった。2014 年には、新規感染者数は過去最多となり、その 93%を MSM が占

める。

MSM 集団は個別施策層としてこれまで数々の HIV 予防啓発に関する研究および事業が行われてきたが、大都市を中心としたモデル事業であり、本県のような地域の予防啓発モデルとして適切なものは不明である。またこれ

までの予防モデルの基礎データとなった対象群は HIV 陽性者をわずかな部分集合とする、殆どが非 HIV 陽性である MSM 集団であり、これらから得られた解析情報を HIV 陽性者におけるリスク行動に当てはめられるかは不明である。このことから HIV 陽性者に絞った調査を行い、これまでのプログラムでは情報が届きにくい、いわゆる hard-to-reach population にあたるのか否かを検討する必要があると思われる。これらは一次予防対策であるが、二次予防対策として、早期発見が重要であり、感染後に医療機関で診断または検査の機会がなかったのかを質問項目に設定した。

HIV 陽性者の MSM は感染する前にどのようなソーシャルネットワークを持ち、どのように予防の情報に接していたのか、そうしたネットワークに、予防の主体（公的機関、研究者、CBO など）はどう介入したらよいかにフォーカスし、クライアント像を見極め、本県における今後の MSM 向け予防戦略の方向性を検証した。

B. 研究方法

1. 調査対象は当院に通院する HIV 陽性者で、感染経路が MSM と自ら明らかにした者の中で、アンケート調査に協力を得られた 20 人に配布し、回収された 12 人を対象とした。（回収率 60.0%）。
2. 調査期間は 2014 年 10 月 1 日～12 月 20 日までとした。
3. アンケート配布および回収法
 - 1) 事前に口頭でアンケート調査の趣旨説明を行った。
 - 2) 参加の同意を得られた者に、アンケートを手渡した。
 - 3) 無記名の自記式質問紙調査法
 - 4) 回収法は無記名の封筒による郵送で匿名性を担保した。
4. アンケート概要
 - 1) 本研究班にて独自に作成した。

- 2) 原則として 5 段階スケール評価を採用した。アンケートは下記の 5 群より構成した。
 - a) 回答者属性に関する質問群
 - b) 感染告知以前の性行動に関する質問群
 - c) 受療機会と HIV 受検に関する質問群
 - d) 感染告知以前の予防意識・認識・行動に関する質問群
 - e) 感染告知以前の情報入手経路に関する質問群

C. 研究結果

1. 回答者の属性に関する質問群

セクシャリティではゲイを自認する解答が 100%であった。感染した時期は 20 代が最多で 60%を占め、30 代 (33.3%)、40 代 (16.7%) であった（図 1）。

感染した地域は沖縄県が 41.7%と最多だが、不詳が 33.3%であった。HIV 感染が判明した時の病期（ステージ）は HIV が 6 人、AIDS が 5 人であった（図 2）。

図 1. 感染した時の年代（回答者数 12 名）

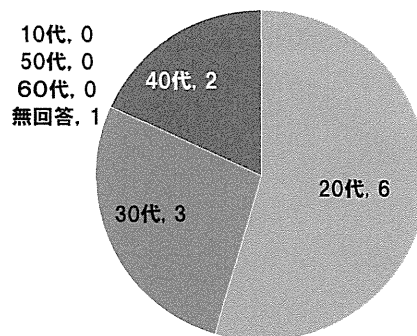
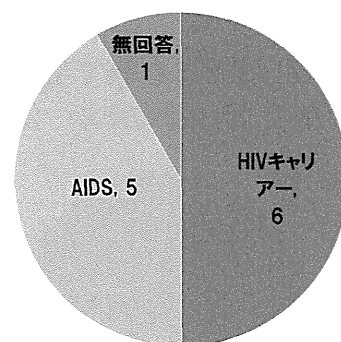


図 2. HIV感染の病期（回答者数 12 名）



2. 感染告知以前の性行動に関する質問群

セックスパートナーと出会うために最も利

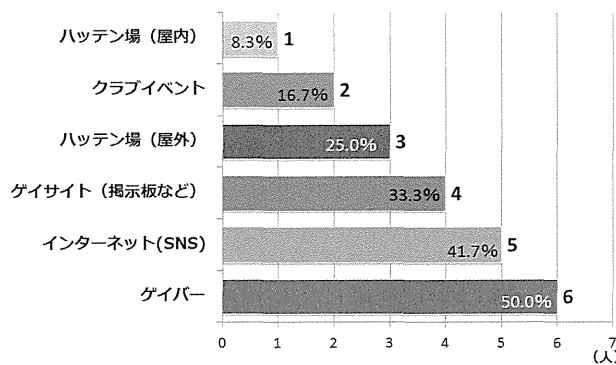
用する手段はハッテン場(33.3%)、ゲイバー(50.0%)、ゲイ専用掲示板(33.3%)であった(図3)。

3. 受療機会とHIV受検に関する質問群

感染が判明する前のHIV受検歴では、8人が検査歴無しで(図4)、7人(58.3%)が現在のHIV検査は受けにくいと回答していた(図5)。検査歴無しの方では6人(75%)が受けにくいと回答した。

図3. セックスパートナーとの出会う為の方法

(回答者数12名 複数回答)



HIV感染が判明する前に最後に病院に行った理由に、HIVと関連した疾患と回答したのは8人(66.7%)であった(図6)。受診した医療機関でHIV検査を勧められたのは7人(58.3%)で、4人(33.3%)は勧められなかった(図7)。4人がAIDS指標疾患ではなく性感染症などを理由として受診していた。

急性HIV感染症の記憶があるかの問いでは7人(58.3%)が覚えており(図8)、5人が実際に医療機関に受診していた(図9)。

図4. HIV感染が判明する前のHIV検査の受検歴

(回答者数12名)

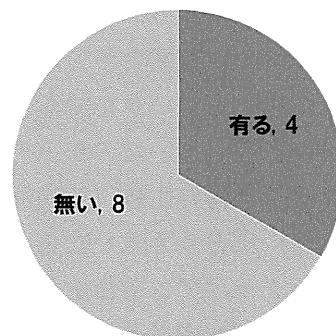


図5. 現状のHIV検査は受けやすかったか

(回答者数12名)

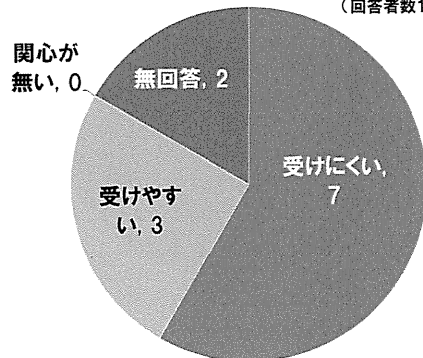


図6. HIV感染告知前の最後に病院に行った理由

(回答者数12名)

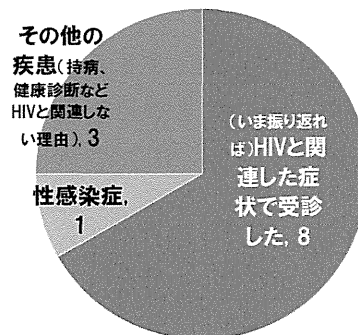


図7. HIVに関する疾患で受診した際、病院はHIV検査を勧めたか

(回答者数12名)

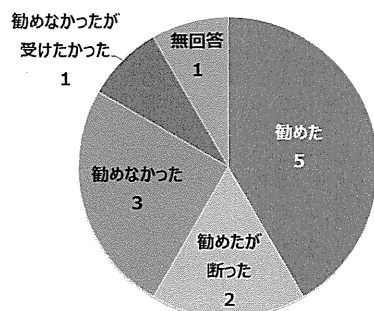
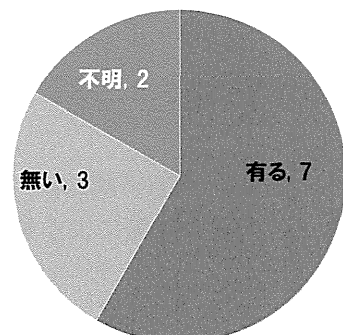


図8. 急性HIV感染症の記憶の有無

(回答者数12名)



4. 感染告知以前の予防意識・認識・行動

感染告知以前の予防意識・認識・行動に関する質問群では、自分がHIVに感染する可能性について、5人（41.7%）が全く心配していなかったと回答していた（図10）。

5. 感染告知以前のHIV関連情報の入手経路

感染告知以前のHIV関連情報の入手経路に関する質問群ではネットや掲示板とMSMの商業施設・イベントが多く、両方で過半数を占める一方、テレビ・新聞・ポスターなどは訴求効果に乏しい結果であった（図11）。

図9. 急性HIV感染症時に病院受診の有無
(回答者数12名)

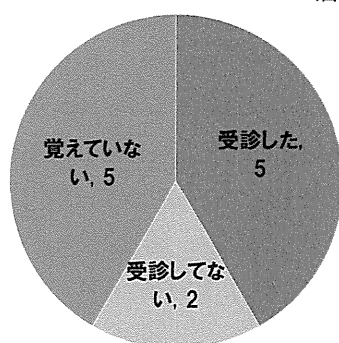


図10. 自分がHIVに感染する可能性について
(回答者数12名)

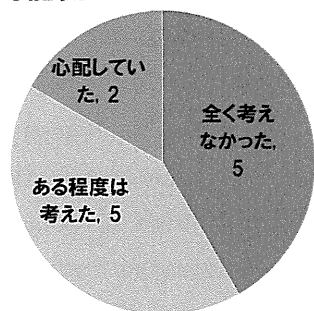
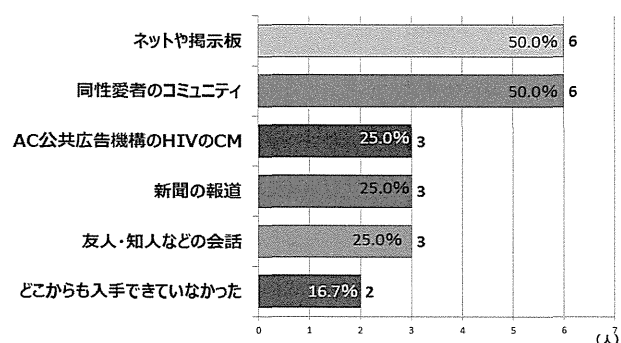


図11. HIV陽性を知る前に認知していたHIV関連情報の入手先
(回答者数12名 複数回答)



D. 考察

1. 男性同性愛者でHIVに感染した群は、感染しなかった群と特徴的な行動様式があるかについては、HIV受検率が低い、心因的な検査のハードルが高い、情報の入手の量と質が足りないなどの傾向がみられたが、統計的に有意であるかは、今後アンケート数を増加し、これまで本研究班が蓄積してきたクラブイベント・バー調査、インターネットアンケート調査との比較検討が必要である。
2. MSMへのHIV関連情報の伝達は、行政が主導している個別施策層を意識しない、画一的な方法では訴求性が低いことが示唆された。
3. 今回は、HIV感染者早期発見のために、感染リスクの高い患者に対する医療機関の対応について、初めて質問項目を作成した。特に急性HIV感染症時期では予想以上の受診歴があり、これらの症状に対する医療機関の啓発が必要と思われた。
4. 急性HIV感染症を自覚して受診した際に、担当医よりHIV検査を勧められたかを問う、質問を追加すべきと思われた。

E. 結語

HIV感染者の行動様式を理解することは、一次および二次予防に有用であると推察された。

F. 個人情報管理について

1. 個人情報の紛失、流出、改ざんおよび漏洩などを防ぐため、個人情報を保有するのは本研究の代表者（研究分担者）のみとし、情報管理上問題は発生しなかった。
2. 法令等の順守については、個人情報保護に関して適用される法令、国のガイドラインを熟読し順守した。

G. 発表論文等

(○印は当研究班に関連した発表)

(研究論文)

1. Nakamura H, Tateyama M, Tasato D, Haranaga S, Ishimine T, Higa F, Kaneshima H, Fujita J. The prevalence of airway obstruction among Japanese HIV-positive male patients compared with general population; a case-control study of single center analysis. *J Infect Chemother.* 20(6):361-4. 2014
2. Nakamura K, Tateyama M, Tasato D, Haranaga S, Tamayose M, Yara S, Higa F, Fujita J. Pure red cell aplasia induced by lamivudine without the influence of zidovudine in a patient infected with human immunodeficiency virus. *Intern Med.* 53(15):1705-8. 2014
3. Hibiya K, Tateyama M, Teruya K, Mochizuki M, Nakamura H, Tasato D, Furugen M, Higa F, Endo H, Kikuchi Y, Oka S, Fujita J. Depression of local cell-mediated immunity and histological characteristics of disseminated AIDS-related Mycobacterium avium infection after the initiation of antiretroviral therapy. *Intern Med.* 52(16):1793-803. 2013.
4. Hibiya K, Teruya K, Tateyama M, Oka S, Fujita J. Enteral entrance of Mycobacterium avium in patients with disseminated mycobacterial disease. *International Journal of Mycobacteriology.* 2:121-122. 2013
5. Hibiya K, Teruya K, Tateyama M, Oka S, Fujita J. Enteral entrance of Mycobacterium avium in patients with disseminated mycobacterial disease. *International Journal of Mycobacteriology.* 121-122. 2013
6. Hibiya K, Tateyama M, Teruya K, Mochizuki M, Nakamura H, Tasato D, Furugen M, Higa F, Endo H, Kikuchi Y, Oka S, Fujita J. Depression of Local Cell-mediated Immunity and Histological Characteristics of Disseminated AIDS-related Mycobacterium avium Infection after the Initiation of Antiretroviral Therapy. *Intern Med.* 52(16):1793-1803. 2013
7. ○塩野徳史, 金子典代, 市川誠一, 山本政弘, 健山正男, 内海眞, 木村哲, 生島嗣, 鬼塚哲郎: MSM (Men who have sex with men) における HIV 抗体検査受検行動と受検意図の促進要因に関する研究, *日本公衆衛生雑誌*, 60(10), 639-650, 2013
8. Hibiya K, Tateyama M, Niimi M, Teruya H, Karimata Y, Hirai J, Tokeshi Y, Haranaga S, Tasato D, Nakamura H, Ihama Y, Haroon A, L Cash H, Higa F, Hokama A, Ogawa K, Fujita J. Acquired Immune-deficiency Syndrome with Focal Onset of Mycobacterium avium Infection Displaying a Histological/Genetic Pattern of Disseminated Mycobacteria. *Intern Med* 51(21):3089-3094. 2012.
9. 健山正男, 比嘉太, 藤田次郎: 我が国における AIDS 発症動向 - 「いきなり AIDS」の問題, *日本医事新報*, 4676, 25-30, 2013
10. Hibiya K, Tateyama M, Niimi M, Teruya H, Karimata Y, Hirai J, Tokeshi Y, Haranaga S, Tasato D, Nakamura H, Ihama Y, Haroon A, L Cash H, Higa F, Hokama A, Ogawa K, Fujita J, Acquired Immune-deficiency Syndrome with Focal Onset of Mycobacterium avium Infection Displaying a Histological/Genetic Pattern of Disseminated Mycobacteria, *Intern Med.*, 51(21): 3089-3094, 2012

(学会発表)

1. ○金子典代, 塩野徳史, 健山正男, 山本政弘, 鬼塚哲郎, 内海眞, 伊藤俊弘, 岩橋恒太, 市川誠一: MSM 向けインターネット横断調査に続く追跡パネル調査法の妥当性の検討, 第 27 回日本エイズ学会学術集会・総

- 会, 熊本市, 2013
2. ○牧園裕也, 荒木順子, 石田敏彦, 太田貴, 金城健, 後藤大輔, 伊藤俊広, 内海眞, 鬼塚哲郎, 山本政弘, 健山正男, 塩野徳史, 金子典代, 市川誠一: MSM 向けエイズ対策としてのコミュニティセンターの意義と妥当性の検討, 第 27 回日本エイズ学会学術集会・総会, 熊本市, 2013
 3. 健山正男, 田里大輔, 仲村秀太, 仲松正司, 宮城一也, 原永修作, 比嘉太, 藤田次郎: HIV に関連した神経認知障害の臨床的検討, 第 86 回日本感染症学会総会・学術講演抄録, 86 : 326, 2012
 4. 健山正男, 比嘉太, 田里大輔, 宮城一也, 原永修作, 藤田次郎: 行政と連携し集団予防内服により 2 次感染を抑制できた劇症型髄膜炎菌性肺血症症例, 第 60 回日本化学療法学会学術集会プログラム・抄録集, 60 : 287, 2012
 5. 前城達次, 田中照久, 平田哲生, 田里大輔, 比嘉太, 健山正男, 金城福則, 藤田次郎: HIV/HBV 重複感染症における Tenofovir 及び Emtricitabine による抗 HBV 効果の検討, 第 86 回日本感染症学会総会・学術講演抄録, 86 : 437, 2012
 6. 田里大輔, 健山正男, 仲村秀太, 古堅誠, 宮城一也, 原永修作, 屋良さとみ, 比嘉太, 藤田次郎: AIDS 患者に発症した非結核性抗酸菌症 5 例の検討, 第 87 回日本結核病学会総会講演集, 87 : 309, 2012
 7. 田里大輔, 健山正男, 仲村秀太, 狩俣洋介, 仲松正司, 金城武士, 古堅誠, 宮城一也, 前城達次, 原永修作, 屋良さとみ, 比嘉太, 藤田次郎, 赤痢アメーバ大腸炎・肝膿瘍に腸結核および肝結核を合併した AIDS の 1 例, 第 82 回日本感染症学会西日本地方会学術集会プログラム・講演抄録集, 225, 2012
 8. 山腰晃治, 田里大輔, 健山正男, 仲村秀太, 狩俣洋介, 仲松正司, 金城武士, 古堅誠, 宮城一也, 原永修作, 屋良さとみ, 比嘉太, 藤田次郎: HIV 感染症に合併した治療に難渋した陰部単純疱疹 (HSV-1) の 1 例, 第 82 回日本感染症学会西日本地方会学術集会プログラム・講演抄録集, 227, 2012
 9. 狩俣洋介, 比嘉太, 平井潤, 仲村秀太, 田里大輔, 仲松正司, 玉寄真紀, 金城武士, 宮城一也, 原永修作, 健山正男, 藤田次郎, ヒト・メタニューモウイルス感染症に合併した肺炎 24 例の臨床的検討, 第 82 回日本感染症学会西日本地方会学術集会プログラム・講演抄録集, 288, 2012
 10. 新里彰, 宮城一也, 稲嶺盛史, 田里大輔, 金城武士, 玉寄真紀, 原永修作, 比嘉太, 健山正男, 藤田次郎: インフルエンザ肺炎との鑑別を要したサイトメガロ、ニューモシスチス合併肺炎の 1 症例, 第 69 回日本呼吸器学会・日本結核病学会九州支部秋季学術講演会プログラム・講演抄録, 119, 2012
 11. 仲村秀太, 健山正男, 田里大輔, 前田サオリ, 宮城京子, 原永修作, 比嘉太, 藤田次郎: 当院 HIV 感染者における骨代謝以上の有病率とその危険因子に関する検討-第 2 報-, 第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会 プログラム・抄録集, 14 : 455, 2012
 12. 仲里愛, 富永大介, 健山正男, 田里大輔, 仲村秀太, 宮城京子, 前田サオリ, 原永修作, 比嘉太, 石内勝吾, 藤田次郎: HAND における前頭葉機能障害と精神症状の関連, 第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会 プログラム・抄録集, 14 : 409, 2012
 13. 仲里愛, 健山正男: HIV 関連神経認知障害 (HAND) 診断の実際と今後の展開, 第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会プログラム・抄録集, 14 : 199, 2012
 14. 健山正男, 井濱容子, 深沢真希, 田里大輔, 仲村秀太, 仲里愛, 原永修作, 宮城一也, 比嘉太, 藤田次郎, 宮崎哲次, 宮城京子, 前田サオリ: 沖縄県の法医解剖症

- 例における HIV 感染率の前方視的検討。
第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会プログラム・抄録集, 14 : 412, 2012
15. 椎野禎一郎, 服部純子, 瀧永博之, 吉田繁, 上田敦久, 近藤真規子, 貞升健志, 藤井毅, 横幕能行, 上田幹夫, 田邊嘉也, 南留美, 健山正男, 杉浦瓦:国内感染者集団の大規模塩基配列解析 3:希少サブタイプとサブタイプ間組換え体の動向, 第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会プログラム・抄録集, 14 : 211, 2012
16. 服部純子, 瀧永博之, 渡邊大, 長島真美, 貞升健志, 近藤真規子, 南留美, 吉田繁, 森治代, 内田和江, 椎野禎一郎, 加藤真吾, 千葉仁志, 佐藤典宏, 伊藤俊広, 佐藤武幸, 上田敦久, 石ヶ坪良明, 古賀一郎, 太田康男, 山元泰之, 福武勝幸, 古賀道子, 岩本愛吉, 西澤雅子, 岡慎一, 伊部史朗, 松田昌和, 林田庸総, 横幕能行, 上田幹夫, 大屋正義, 田邊嘉也, 白阪琢磨, 小島洋子, 藤井輝久, 高田昇, 山元政弘, 松下修三, 藤田次郎, 健山正男, 杉浦瓦:新規 HIV/AIDS 診断症例における薬剤耐性 HIV の動向, 第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会プログラム・抄録集, 14 : 245, 2012
17. 西島健, 高野操, 石坂美千代, 瀧永博之, 菊池嘉, 遠藤知之, 堀場昌英, 金田暁, 鯉淵智彦, 内藤俊夫, 吉田正樹, 立川夏夫, 横幕能行, 松下修三, 健山正男, 田邊嘉也, 満屋裕明, 岡慎一:初回治療でアタザナビル/リトナビルを固定しエプジコムとツルバダを無作為割付するオープンラベル多施設臨床試験:ETstudy96 週結果。第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会プログラム・抄録集, 14 : 213, 2012
18. 前田サオリ, 宮城京子, 健山正男, 石川章子, 田里大輔, 仲村秀太, 石郷岡美穂, 大城市子, 吉本なるよ, 新江裕貴, 諸見牧子, 仲里愛, 下地孝子, 藤田次郎:定期受診が遵守できない患者の要因の検討, 第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会プログラム・抄録集, 14 : 361, 2012
19. 宮城京子, 前田サオリ, 健山正男, 石川章子, 田里大輔, 仲村秀太, 石郷岡美穂, 大城市子, 吉本なるよ, 新江裕貴, 諸見牧子, 仲里愛, 下地孝子, 藤田次郎:沖縄県におけるコーディネーターナースの活動状況, 第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会プログラム・抄録集, 14 : 373, 2012
20. 仲村秀太, 健山正男, 田里大輔, 平井潤, 宮城一也, 狩俣洋介, 金城武士, 玉寄真紀, 仲松正司, 古堅誠, 原永修作, 比嘉太, 藤田次郎:S 状結腸穿孔から右大腿部筋膜間膿瘍を併発した一例, 第 82 回日本感染症学会西日本地方会学術集会プログラム・講演抄録, 244, 2012

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
無し
2. 実用新案登録
無し

**MSM 及びゲイ・バイセクシュアル男性を対象とした地域間比較（1）
東海地域のゲイ・バイセクシュアル男性を対象とする無料 HIV 検査会の受検者質問紙調査**

研究分担者：金子典代（名古屋市立大学看護学部 准教授）、本間隆之（山梨県立看護大学）

研究協力者：石田敏彦、藤浦裕二（ANGEL LIFE NAGOYA）、市川誠一（名古屋市立大学看護学部）

研究要旨

本研究班では、各地域のMSMの予防行動の実態把握とゲイCBOが実施する介入評価のために様々な調査手法を開発し、実施してきた。2014年度は、2010年度から2013年度にかけて開発したGCQアンケートシステムを用いて首都圏で新宿二丁目の20代を中心とする若年ゲイバー顧客を対象とする調査を実施した。次年度以降は地域を拡大して、GCQを実施予定である。

東海地域（名古屋市）ではゲイ・バイセクシュアル男性を対象とする啓発イベントNLGRおよび無料HIV検査会が2001年から継続されている。本報告では、無料HIV検査会会場の受検者に対する質問紙調査、HIV検査会と同日に開催されたゲイ・バイセクシュアル男性、セクシュアルマイノリティ向けの啓発イベントNLGR来場者に対する質問紙調査を行った。無料HIV検査会のMSM受検者のコンドーム使用ステージは、特定相手と維持期にあるものの割合は39.4%、その場限りの相手における維持期の割合は50.4%であった。生涯で初めてHIV検査を受検するものの割合は検査会の回数を重ねるごとに減少してきており、検査会を定期的な検査として位置づけているものも多いことが考えられる。今後は、HIV感染リスクがありながら定期的な検査経験がない受検者が増加するような広報や介入が必要である。

A. 研究目的

本研究班では、各地域のMSMの予防行動の実態把握とゲイCBOが実施する啓発活動を評価するために様々な調査手法を開発し、実施してきた。本研究課題では、東北、首都圏、東海、近畿、中・四国、福岡、沖縄地域のMSMを対象に、従来の横断調査で観察してきた予防行動、検査行動、CBOの啓発資材等の認知を把握することに加え、コミュニティ内での規範、コミュニティ感覚、国内外の移動とそれに伴う性行動の項目を加えて評価することとした。

2014年度は、2010年度から2013年度にかけて開発したGCQアンケートシステムを用いて東京都の新宿二丁目の20代を中心とする

若年ゲイバー顧客を対象とする調査を実施した（本間隆之、他：MSM及びゲイ・バイセクシュアル男性を対象とした地域間比較（2）の報告参照）。次年度以降は、他の地域について同様の調査を実施する予定である。

東海地域ではゲイ・バイセクシュアル男性を対象とする啓発イベントNLGRおよび同時に行われる無料HIV検査会が2001年に始まり、2002年からはCBO・ANGEL LIFE NAGOYAと当研究班の前身の研究班が協働して実施し、2008年からは無料HIV検査会が名古屋市事業となり国立病院機構名古屋医療センターが中心となって実施している。本報告では、ゲイ・バイセクシュアル男性を対象とする啓発イベントNLGR+2014と同時開催の無料HIV検査会

において質問紙調査を実施し、受検者の検査行動や予防行動を含む性行動、予防資材への接触の実態を分析した。

B. 研究方法

本研究班の介入地域である東海地域のゲイ・バイセクシュアル男性を対象とする無料 HIV 検査会(5/31、6/1 に実施)において受検者に受検行動・性行動等の質問紙調査を実施した。検査会場で検査のオリエンテーション説明の後、アンケート協力を口頭にて依頼し、検査会場(採血前)にて、無記名自記式の受検者アンケート用紙を手渡しで配布した。採血後にアンケートブースにて回答してもらった。

質問項目は基礎属性、過去の受検経験、今回の検査会の情報の入手、性行動、東海地域の MSM を対象に活動する CBO・ANGEL LIFE NAGOYA(以下、ALN)の資材の認知、コミュニティセンターの認知や来訪経験の有無であった。検査会の受検者アンケートの結果については、基礎集計を算出し、また予防行動と関連要因の検討のために、対象者を MSM に限定し、性行為相手別のコンドーム使用行動ステージ別に分析を行った。

本研究は名古屋市立大学看護学部倫理委員会より承認を得て実施した(承認番号 14025-2)。

C. 結果

1. 各調査における回答回収状況

名古屋市内で実施した無料 HIV 検査会において 471 件の有効回答を得た。また同時に開催されたゲイ・バイセクシュアル男性対象の啓発イベント NLGR+2014 の会場において、来場者から 282 件の有効回答を得た。

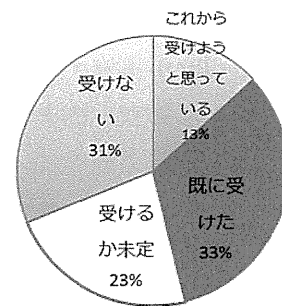
2. 検査会受検者の基礎属性

無料 HIV 検査会受検者アンケート回答者 471 件のうち MSM は 445 件、非 MSM は 26 件で、基礎属性、受検行動等について表 1 に示した。

年齢は 20-30 歳代のものが過半数を占め、全体の 74.6% を占めた。居住地は名古屋市在住者が 31.6%、同市を除く愛知県在住者が 31.8% で、愛知県内在住者が 63.4% であった。性指向はゲイ、バイセクシュアルが合わせて 96% であった。生涯に HIV 検査を受けたことがあるものは、全体の 78.8% で、MSM 受検者の 80.2% に比して非 MSM 受検者では 53.8% と低い($p < 0.001$)。検査を受ける理由は、「他の人に感染させたくないから」が最も高く 44.2% であり、次いで「ただ単に知りたいから」が 37.2%、「定期的に検査を受けているから」が 36.3% であった。「定期的に受けているから」は MSM 受検者が 37.5% で非 MSM 受検者 15.4% に比べて高く、「ただ単に知りたいから」は逆に MSM 受検者 35.5% で非 MSM 受検者 65.4% に比して低いことが示された。

なお、検査日と同日に検査会場近くで開催された池田公園でのゲイ・バイセクシュアル男性向けのイベントにおいて、検査を受検するかを尋ねたところ、回答者 282 名のうち「受けない」と回答したものが 31%、「受けるか未定」と回答したものが 23% であった(図 1)。

図1 NLGR+イベント会場の来場者調査 (N=282)
今回の中区役所でのHIV検査を受けますか？



3. MSM 受検者の性行動、商業施設利用、予防資材の認知

MSM 受検者(445 名)の性行動および商業施設の利用、予防介入への接触について表 2 に示した。過去 6 か月間のアナルセックス経験は 96.6% で、コンドーム常用率は特定相手と

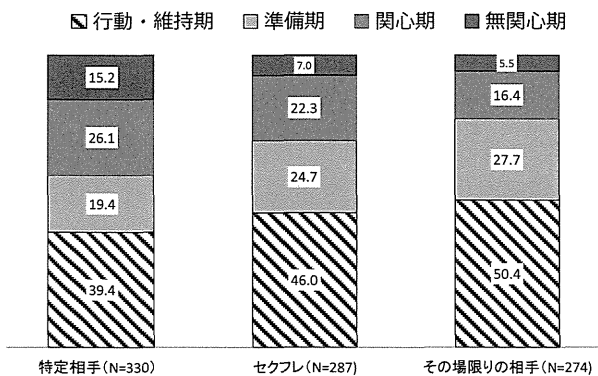
で 39.2%、友達やセフレとで 46.0%、その場限りの相手とで 50.4%であった。過去 6 か月の商業施設利用はバーが 65.8%で、次いでゲイナイト 41.6%であった。

4. MSM 受検者における性行為相手別のコンドーム使用行動ステージ分布

MSM のコンドーム使用行動の実態をより明確化するため、性行為相手別のコンドーム使用行動の分析を行った。特定相手、セフレの相手、その場限りの相手別にコンドーム使用行動を無関心期、関心期、準備期、行動・維持期の 4 ステージのグループに分類した。ステージ分類には、過去 6 か月の当該相手とのコンドーム使用行動と当該相手との今後のコンドーム使用の意図のデータを用いた。

特定相手との行動ステージについては、330 名の該当者のうち、39.4%が行動・維持期にあり、セフレ (287 名) とは行動・維持期にあるものが 46%であり、その場限りの相手 (274 名) については 50.4%であった。一方、無関心期の割合は、特定相手とのステージにおいて 15.2%で、セフレ (7.0%)、その場限り相手 (5.5%) より高かった (図 2)。

図2 相手別コンドーム使用ステージの分布



5. MSM の受検者における相手別のコンドーム使用行動ステージ分布と関連要因の検討

特定相手、その場限りの相手のコンドーム使用のステージと関連要因を検討するため、

ステージと基礎属性、検査行動、知識、陽性者の身近さ、過去 6 か月の商業施設利用、ゲイ CBO の活動認知とのクロス集計を行った。

特定相手とのコンドーム使用のステージ分類による結果を表 3-1、表 3-2 に示した。検査受検の理由「他の人に感染させたくないから」、「恋人と一緒に受けることにしたから」「コンドームを使わないアナルセックスをしたから」、過去 6 か月の性感染症罹患の不安、過去 6 か月のゲイショップの利用に関連が見られた。

その場限りの相手とのコンドーム使用のステージ分類の結果を表 4-1、表 4-2 に示した。検査受検の理由「定期的に検査を受けているから」「友達と一緒に受けるから」「コンドームを使わないオーラルセックスをしたから」「コンドームを使わないアナルセックスをしたから」「特定相手とのコンドーム使用ステージ」「セフレとのコンドーム使用のステージ」との間に有意な関連が見られた。

行動・維持期ステージの MSM は、相手が特定相手、セフレ、その場限りの相手にかかわらずコンドーム使用ステージは行動・維持期であり、また準備期、関心期のものも、どの相手の場合でも同様の行動ステージにあることが示された。

D. 考察

名古屋市の無料検査会において、受検者調査を実施し 471 名の有効回答を得た。またそのうち、445 名が MSM であった。

今回の無料 HIV 検査会受検者では、生涯受検経験割合が 78.8%であった。過去の調査結果と合わせると検査会の回数を重ねるごとに生涯で初めて HIV 検査を受検するものの割合は減少してきており、検査会を定期的な検査と位置づけているものも多いことが考えられる。しかし、検査会と同時に開催されたゲイ・バイセクシュアル男性をはじめとするセクシュアルマイノリティ対象の大型イベント

NLGR の来場者への質問紙調査では、約半数が検査会を受検しない/未定であること、また東海地域ではAIDS発症でHIV感染が判明する報告割合が未だ高い状況にあることを考慮すると、今後の取組としてHIV感染のリスクがありながら定期的な検査経験のない受検者が増加する介入が必要と考える。

E. 結論

東海地域のゲイ・バイセクシュアル男性を対象とする啓発イベント会場および無料 HIV 検査会会場において質問紙調査を実施した。無料 HIV 検査会受検者の生涯受検経験割合は78.8%で、特にMSM受検者では80.2%と高かった。一方で、啓発イベント会場来場者の約半数は検査会を受検しない/未定であると回答していた。HIV 感染リスクがありながら定期的な検査経験のない受検者が増加する取り組みが必要である。

MSM 受検者のコンドーム使用ステージが行動・維持期の割合は、特定相手との場合は39.4%でその場限りの相手(50.4%)より低かった。

F. 発表論文等

著書

- 1) 金子典代：MPH の取得とエイズ予防研究の10年，MPH（マスター・オブ・パブリックヘルス）留学へのパスポート：世界を目指すヘルスプロフェッション，公益財団法人日米医学医療交流財団編（分担執筆），181-197，はる書房，東京，2014。

論文

- 1) Mayumi Imahashi, Taisuke Izumi, Dai Watanabe, Junji Imamura, Kazuhiro Matsuoka, Hirotaka Ode, Takashi Masaoka, Kei Sato, Noriyo Kaneko, Seiichi Ichikawa, Yoshio Koyanagi, Akifumi Takaori-Kondo, Makoto Utsumi,

Yoshiyuki Yokomaku, Takuma Shirasaka, Wataru Sugiura, Yasumasa Iwatani, Tomoki Naoe: Lack of Association between Intact/Deletion Polymorphisms of the APOBEC3B Gene and HIV-1 Risk, PLoS One, 2014 Mar 25;9(3):e92861. doi: 10.1371/journal.pone.0092861, eCollection 2014.

- 2) 瀬瀬ゆき，金子典代，市川誠一：若年女性における過去と現在の性感染症予防行動と情報入手状況の比較，日本ウーマンズヘルス学会誌，13（1），53-62，2014。

学会発表（国内）

- 1) 荒木順子，佐久間久弘，木南拓也，岩橋恒太，大島岳，柴田恵，阿部甚兵，金子典代，塩野徳史，市川誠一：MSMを対象とした情報の集約・発信のハブ的装置としてのコミュニティセンターakta，第28回日本エイズ学会学術集会・総会，大阪市，2014。
- 2) 岩橋恒太，高野操，大島岳，阿部甚兵，柴田恵，矢島嵩，加藤悠二，佐久間久弘，大木幸子，塩野徳史，金子典代，市川誠一，生島嗣，荒木順子：首都圏居住のMSMを対象とした、HIV抗体検査普及のためのウェブコンテンツ「あんしん HIV 検査リサーチ」の構成とその検討，第28回日本エイズ学会学術集会・総会，大阪市，2014。
- 3) 宮田良，塩野徳史，市川誠一，金子典代：セックスワーカー女性の実態調査 - インターネットを用いた全国規模のアンケート調査より-，第28回日本エイズ学会学術集会・総会，大阪市，2014

学会発表（国外）

- 1) J. Koerner, S. Ichikawa, N. Kaneko, S. Shiono, I. Kai: An internet survey investigating the HIV information needs and travel related risk behaviors of English speaking foreign gay and bisexual men in Japan, the 20th

International AIDS Conference,
Melbourne, Australia, July, 2014

- 2) K. Iwahashi, S. Ichikawa, S. Shiono, N. Kaneko, J. Koerner, Y. Ikushima, J. Araki, K. Shibata, T. Kinami, M. Takano, S. Oka, S. Kimura: The strategic research 'We can do it! 2010' campaign to promote testing behaviour among MSM in the Tokyo region, the 20th International AIDS Conference, Melbourne, Australia, July, 2014

表1 無料 HIV 検査会(2014年)のMSMおよび非MSM受検者の基礎属性・受検行動について

	性指向群				合計	カイ二乗 検定	
	非MSM・不明		MSM				
年齢10区分							
10歳代	1	4.0%	12	2.8%	13	2.9%	.819
20歳代	8	32.0%	169	39.9%	177	39.4%	
30歳代	11	44.0%	147	34.7%	158	35.2%	
40歳代	4	16.0%	86	20.3%	90	20.0%	
50歳代	1	4.0%	10	2.4%	11	2.4%	
居住地							
名古屋	11	42.3%	138	31.0%	149	31.6%	.511
愛知	4	15.4%	146	32.8%	150	31.8%	
岐阜県	3	11.5%	40	9.0%	43	9.1%	
三重県	2	7.7%	25	5.6%	27	5.7%	
静岡県	2	7.7%	20	4.5%	22	4.7%	
その他	4	15.4%	76	17.1%	80	17.0%	
性別							
男	9	34.6%	440	99.3%	449	95.7%	.000
女	16	61.5%	1	.2%	17	3.6%	
その他	1	3.8%	2	.5%	3	.6%	
結婚							
はい	4	16.0%	4	.9%	8	1.7%	.000
いいえ	21	84.0%	440	99.1%	461	98.3%	
健康保険							
国民健康保険	9	34.6%	124	28.0%	133	28.4%	.027
職場の健康保険	10	38.5%	275	62.1%	285	60.8%	
被扶養者の健康保険	5	19.2%	32	7.2%	37	7.9%	
加入していない	2	7.7%	12	2.7%	14	3.0%	
性的指向							
ゲイ	5	19.2%	384	86.5%	389	82.8%	.000
bisexual	5	19.2%	57	12.8%	62	13.2%	
lesbian	3	11.5%	0	.0%	3	.6%	
hetero	6	23.1%	0	.0%	6	1.3%	
わからない	6	23.1%	1	.2%	7	1.5%	
その他	1	3.8%	2	.5%	3	.6%	
生涯の受検経験							
ない	12	46.2%	88	19.8%	100	21.2%	.001
ある	14	53.8%	357	80.2%	371	78.8%	
定期的検査(受検経験有の中で)							
定期的に受けている	5	38.5%	202	56.6%	207	55.9%	.196
定期的に受けていない	8	61.5%	155	43.4%	163	44.1%	
受検の決定							
自分で決めた	22	84.6%	390	87.8%	412	87.7%	.627
人から誘われた	4	15.4%	54	12.2%	58	12.3%	
検査受検理由							
感染可能性があるから	9	34.6%	116	26.1%	125	26.5%	.337
他の人に感染させたくないから	12	46.2%	196	44.0%	208	44.2%	
定期的に検査を受けているから	4	15.4%	167	37.5%	171	36.3%	.022
情報に触れて自分のことが心配になったから	3	11.5%	52	11.7%	55	11.7%	.982
友達と一緒に受けることにしたから	7	26.9%	72	16.2%	79	16.8%	.154
恋人と一緒に受けることにしたから	1	3.8%	38	8.5%	39	8.3%	.399
コンドームを使わないオーラルセックスをしたから	5	19.2%	112	25.2%	117	24.8%	.496
コンドームを使わないアナルセックスをしたから	0	.0%	89	20.0%	89	18.9%	.008
体調に変化があり、感染の不安を感じたから	0	.0%	14	3.1%	14	3.0%	1.000
性感染症にかかったから	0	.0%	5	1.1%	5	1.1%	1.000
新しい恋人ができたから	1	3.8%	36	8.1%	37	7.9%	.711
身近な人の感染がわかったから	3	11.5%	17	3.8%	20	4.2%	.091
ただ単に知りたいから	17	65.4%	158	35.5%	175	37.2%	.003
その他	1	3.8%	5	1.1%	6	1.3%	.290
知人のHIV感染者の存在							
いる	7	26.9%	165	37.2%	172	36.7%	.009
いると思う	1	3.8%	80	18.1%	81	17.3%	
いないと思う	6	23.1%	76	17.2%	82	17.5%	
いない	0	.0%	32	7.2%	32	6.8%	
わからない	12	46.2%	90	20.3%	102	21.7%	
過去6か月のHIVや性感染症の不安							
よくあった	1	4.2%	7	1.6%	8	1.7%	.058
時々あった	4	16.7%	148	33.3%	152	32.4%	
あまりなかった	8	33.3%	183	41.1%	191	40.7%	
全くなかった	11	45.8%	107	24.0%	118	25.2%	
HIVや性感染症についての相談相手							
相談できる相手や場所を知っている	9	37.5%	167	37.7%	176	37.7%	.375
相談できる相手はいるが場所は知らない	7	29.2%	72	16.3%	79	16.9%	
相談できる相手はいないが場所は知っている	4	16.7%	92	20.8%	96	20.6%	
両方知らない	4	16.7%	112	25.3%	116	24.8%	

表 2 MSM の受検者における性行動、商業施設の利用、予防介入への接触

a 性行動			b 商業施設の利用、予防介入への接触		
	N	%		N	%
過去6か月の男性とのアナルセックス			過去6か月の商業施設の利用		
ない	15	3.4	ゲイバー・ピアンバー	293	65.8
ある	428	96.6	ゲイナイト	185	41.6
合計	443	100.0	ゲイショップ	140	31.5
特定相手とのコンドーム使用			有料ハッテン場	195	43.8
常用	130	39.2	野外系ハッテン場	43	9.7
使うことが多かった	75	22.6	発展場で有名な銭湯等	95	21.3
五分五分	43	13.0	全て利用無	51	11.5
使わないことが多かった	38	11.4	過去6か月のゲイ向けサイト利用		
使わなかった	46	13.9	P C 出会い系サイト掲示板	140	31.5
合計	332	100.0	携帯出会い系サイト	151	33.9
友達やセフレとのコンドーム使用			Mixi	78	17.5
常用	132	46.0	ゲイ向けsns	107	24.0
使うことが多かった	77	26.8	位置情報つき出会い系サイト	337	75.7
五分五分	37	12.9	全て利用無	34	7.6
使わないことが多かった	23	8.0	活動認知1 ALNのWEBサイト		
使わなかった	18	6.3	見た	91	20.8
合計	287	100.0	認知のみ	132	30.2
その場限り相手とのコンドーム使用			知らない	214	49.0
常用	138	50.4	活動認知2 ALNの配布するコンドーム		
使うことが多かった	60	21.9	受け取った	143	32.7
五分五分	25	9.1	知っているが受け取ったことはない	82	18.8
使わないことが多かった	29	10.6	知らない	212	48.5
使わなかった	22	8.0	活動認知3 コミュニティペーパーHANA		
合計	274	100.0	読んだ	103	23.6
特定相手とのコンドーム使用意図			知っているけれど読んだことはない	89	20.4
毎回使いたい	244	56.9	知らない	245	56.1
出来るだけ使いたい	119	27.7	活動認知4 コミュニティセンターrise		
決めていない	45	10.5	行った	100	23.0
使いたくない	21	4.9	知っているのみ行ったことはない	154	35.4
合計	429	100.0	知らない	181	41.6
友達セフレとのコンドーム使用意図			NLGR+2014に行くか		
毎回使いたい	298	70.3	すでに行ってきた	185	42.0
出来るだけ使いたい	95	22.4	これから行く予定	216	49.0
決めていない	24	5.7	行かない	40	9.1
使いたくない	7	1.7			
合計	424	100.0			
その場限りとのコンドーム使用意図					
毎回使いたい	340	80.4			
出来るだけ使いたい	63	14.9			
決めていない	18	4.3			
使いたくない	2	.5			
合計	423	100.0			

表 3-1 特定相手とのコンドーム使用の行動ステージと関連要因（基礎属性、受検行動）

	特定相手とのアナルセックス時のコンドーム使用ステージ								合計	カイ二乗 検定	
	行動期・維持期		準備期		関心期		無関心期				
	N=130	N=64	N=86	N=50							
年齢10区分											
10歳代	1	.8%	1	1.7%	3	3.6%	2	4.2%	7	2.2%	.969
20歳代	53	43.8%	24	40.0%	37	44.0%	18	37.5%	132	42.2%	
30歳代	43	35.5%	21	35.0%	25	29.8%	19	39.6%	108	34.5%	
40歳代	20	16.5%	12	20.0%	16	19.0%	8	16.7%	56	17.9%	
50歳代	4	3.3%	2	3.3%	3	3.6%	1	2.1%	10	3.2%	
居住地											
名古屋	43	33.1%	16	25.0%	25	29.1%	19	38.0%	103	31.2%	.170
愛知	41	31.5%	21	32.8%	27	31.4%	16	32.0%	105	31.8%	
岐阜県	10	7.7%	11	17.2%	7	8.1%	6	12.0%	34	10.3%	
三重県	8	6.2%	4	6.3%	2	2.3%	5	10.0%	19	5.8%	
静岡県	4	3.1%	3	4.7%	5	5.8%	3	6.0%	15	4.5%	
その他	24	18.5%	9	14.1%	20	23.3%	1	2.0%	54	16.4%	
結婚											
はい	1	.8%	1	1.6%	1	1.2%	1	2.0%	4	1.2%	.912
いいえ	128	99.2%	63	98.4%	85	98.8%	49	98.0%	325	98.8%	
健康保険											
国民健康保険	39	30.2%	22	34.4%	26	30.6%	15	30.0%	102	31.1%	.823
職場の健康保険	77	59.7%	37	57.8%	50	58.8%	28	56.0%	192	58.5%	
被扶養者の健康保険	11	8.5%	2	3.1%	7	8.2%	6	12.0%	26	7.9%	
加入していない	2	1.6%	3	4.7%	2	2.4%	1	2.0%	8	2.4%	
性的指向											
ゲイ	121	93.1%	53	82.8%	70	81.4%	43	87.8%	287	87.2%	.069
bisexual	9	6.9%	11	17.2%	15	17.4%	5	10.2%	40	12.2%	
わからない	0	.0%	0	.0%	1	1.2%	0	.0%	1	.3%	
その他	0	.0%	0	.0%	0	.0%	1	2.0%	1	.3%	
生涯の受検経験											
ない	22	16.9%	16	25.0%	16	18.6%	8	16.0%	62	18.8%	.538
ある	108	83.1%	48	75.0%	70	81.4%	42	84.0%	268	81.2%	
定期的検査											
定期的に受けている	64	59.8%	23	46.9%	37	52.9%	24	57.1%	148	55.2%	.477
定期的に受けていない	43	40.2%	26	53.1%	33	47.1%	18	42.9%	120	44.8%	
受検の決定											
自分で決めた	112	86.2%	57	89.1%	80	93.0%	43	86.0%	292	88.5%	.431
人から誘われた	18	13.8%	7	10.9%	6	7.0%	7	14.0%	38	11.5%	
感染可能性があるから	35	26.9%	22	34.4%	22	25.6%	13	26.0%	92	27.9%	.633
他の人に感染させたくないから	59	45.4%	30	46.9%	39	45.3%	34	68.0%	162	49.1%	.037
定期的に検査を受けているから	52	40.0%	15	23.4%	32	37.2%	21	42.0%	120	36.4%	.108
情報に触れて自分のことが心配になったから	19	14.6%	8	12.5%	12	14.0%	2	4.0%	41	12.4%	.259
友達と一緒に受けることにしたから	17	13.1%	11	17.2%	17	19.8%	6	12.0%	51	15.5%	.495
恋人と一緒に受けることにしたから	6	4.6%	5	7.8%	6	7.0%	13	26.0%	30	9.1%	.000
コンドームを使わないオーラルセックスをしたから	27	20.8%	14	21.9%	27	31.4%	16	32.0%	84	25.5%	.198
コンドームを使わないアナルセックスをしたから	5	3.8%	24	37.5%	29	33.7%	19	38.0%	77	23.3%	.000
体調に変化があり、感染の不安を感じたから	4	3.1%	5	7.8%	3	3.5%	0	.0%	12	3.6%	.158
性感染症にかかったから	2	1.5%	0	.0%	0	.0%	1	2.0%	3	.9%	.456
新しい恋人ができたから	13	10.0%	5	7.8%	6	7.0%	5	10.0%	29	8.8%	.860
身近な人の感染がわかったから	6	4.6%	4	6.3%	3	3.5%	3	6.0%	16	4.8%	.855
ただ単に知りたいから	47	36.2%	20	31.3%	30	34.9%	12	24.0%	109	33.0%	.450
その他	3	2.3%	1	1.6%	0	.0%	0	.0%	4	1.2%	.386

表 3-2 特定相手とのコンドーム使用の行動ステージと関連要因(知識、予防介入認知)

	特定相手とのアナルセックス時のコンドーム使用ステージ								合計	カイニ乗 検定	
	行動期・維持期		準備期		関心期		無関心期				
	N=130		N=64		N=86		N=50				
知識-HIV即日検査では偽陽性あり											
正解	62	47.7%	34	54.0%	42	48.8%	28	57.1%	166	50.6%	.607
不正解	8	6.2%	7	11.1%	5	5.8%	3	6.1%	23	7.0%	
わからない	60	46.2%	22	34.9%	39	45.3%	18	36.7%	139	42.4%	
知人のHIV感染者の存在											
いる	52	40.0%	21	33.3%	32	37.2%	20	40.0%	125	38.0%	.711
いると思う	25	19.2%	8	12.7%	16	18.6%	7	14.0%	56	17.0%	
いないと思う	20	15.4%	12	19.0%	16	18.6%	8	16.0%	56	17.0%	
いない	11	8.5%	7	11.1%	2	2.3%	3	6.0%	23	7.0%	
わからない	22	16.9%	15	23.8%	20	23.3%	12	24.0%	69	21.0%	
過去6か月のHIVや性感染症の不安											
よくあった	3	2.3%	0	.0%	1	1.2%	2	4.0%	6	1.8%	.000
時々あった	36	27.7%	36	56.3%	43	50.0%	10	20.0%	125	37.9%	
あまりなかった	59	45.4%	17	26.6%	32	37.2%	23	46.0%	131	39.7%	
全くなかった	32	24.6%	11	17.2%	10	11.6%	15	30.0%	68	20.6%	
HIVや性感染症についての相談相手											
相談できる相手や場所を知っている	44	33.8%	19	30.2%	34	39.5%	26	52.0%	123	37.4%	0.264
相談できる相手はいるが場所は知らない	20	15.4%	13	20.6%	13	15.1%	5	10.0%	51	15.5%	
相談できる相手はいるが場所は知らない	23	17.7%	16	25.4%	17	19.8%	10	20.0%	66	20.1%	
両方知らない	43	33.1%	15	23.8%	22	25.6%	9	18.0%	89	27.1%	
セックスフレンドとのゴム使用ステージ											
行動期・維持期	96	87.3%	12	21.4%	7	10.0%	5	15.6%	120	44.8%	.000
準備期	9	8.2%	41	73.2%	15	21.4%	4	12.5%	69	25.7%	
関心期	5	4.5%	3	5.4%	45	64.3%	7	21.9%	60	22.4%	
無関心期	0	.0%	0	.0%	3	4.3%	16	50.0%	19	7.1%	
その場限りの相手とのゴム使用ステージ											
行動期維持期	89	89.9%	12	24.0%	17	24.6%	9	28.1%	127	50.8%	.000
準備期	8	8.1%	35	70.0%	18	26.1%	7	21.9%	68	27.2%	
関心期	2	2.0%	3	6.0%	31	44.9%	6	18.8%	42	16.8%	
無関心期	0	.0%	0	.0%	3	4.3%	10	31.3%	13	5.2%	
過去6か月の商業施設の利用											
ゲイバー・ピアンバー	96	73.8%	39	60.9%	55	64.0%	29	58.0%	219	66.4%	.117
ゲイナイト	66	50.8%	24	37.5%	41	47.7%	18	36.0%	149	45.2%	.166
ゲイショップ	54	41.5%	15	23.4%	23	26.7%	15	30.0%	107	32.4%	.034
有料ハッテン場	54	41.5%	36	56.3%	44	51.2%	21	42.0%	155	47.0%	.183
野外系ハッテン場	15	11.5%	4	6.3%	10	11.6%	8	16.0%	37	11.2%	.430
発展場で有名な銭湯等	26	20.0%	15	23.4%	19	22.1%	15	30.0%	75	22.7%	.553
全て利用無	9	6.9%	7	10.9%	7	8.1%	11	22.0%	34	10.3%	.024
活動認知1 ALNのWEBサイト											
見た	25	19.4%	17	26.6%	12	14.6%	8	16.3%	62	19.1%	.272
認知のみ	48	37.2%	16	25.0%	23	28.0%	15	30.6%	102	31.5%	
知らない	56	43.4%	31	48.4%	47	57.3%	26	53.1%	160	49.4%	
活動認知2 ALNの配布するコンドーム											
受け取った	43	33.3%	28	43.8%	22	26.8%	10	20.4%	103	31.8%	.086
知っているが受け取ったことはない	25	19.4%	7	10.9%	15	18.3%	14	28.6%	61	18.8%	
知らない	61	47.3%	29	45.3%	45	54.9%	25	51.0%	160	49.4%	
活動認知3 コミュニティペーパー-HANA											
読んだ	35	27.1%	17	26.6%	11	13.4%	14	28.6%	77	23.8%	.276
知っているけれど読んだことはない	27	20.9%	13	20.3%	19	23.2%	7	14.3%	66	20.4%	
知らない	67	51.9%	34	53.1%	52	63.4%	28	57.1%	181	55.9%	
活動認知4 コミュニティセンター-rise											
行った	27	21.1%	16	25.4%	16	19.5%	11	22.4%	70	21.7%	.923
知っているのみ行ったことはない	47	36.7%	24	38.1%	27	32.9%	17	34.7%	115	35.7%	
知らない	54	42.2%	23	36.5%	39	47.6%	21	42.9%	137	42.5%	
NLGR+2014に行くか											
すでに行ってきた	54	41.9%	21	32.8%	40	47.1%	18	36.0%	133	40.5%	.630
これから行く予定	62	48.1%	38	59.4%	38	44.7%	27	54.0%	165	50.3%	
行かない	13	10.1%	5	7.8%	7	8.2%	5	10.0%	30	9.1%	

表 4-1 その場限りの相手とのコンドーム使用の行動ステージと関連要因（基礎属性、受検行動）

	その場限り相手とのコンドーム使用の行動ステージ								合計	カイ二乗検 定	
	行動期・維持期		準備期		関心期		無関心期				
	N = 138	N = 76	N = 45	N = 15							
年齢10区分											
10歳代	2	1.5%	4	5.4%	1	2.4%	0	.0%	7	2.7%	.234
20歳代	50	38.5%	31	41.9%	17	40.5%	3	20.0%	101	38.7%	
30歳代	49	37.7%	20	27.0%	16	38.1%	10	66.7%	95	36.4%	
40歳代	26	20.0%	15	20.3%	8	19.0%	1	6.7%	50	19.2%	
50歳代	3	2.3%	4	5.4%	0	.0%	1	6.7%	8	3.1%	
居住地											
名古屋	43	31.2%	19	24.7%	13	28.9%	4	26.7%	79	28.7%	.925
愛知	41	29.7%	27	35.1%	14	31.1%	5	33.3%	87	31.6%	
岐阜県	12	8.7%	10	13.0%	5	11.1%	1	6.7%	28	10.2%	
三重県	10	7.2%	3	3.9%	2	4.4%	2	13.3%	17	6.2%	
静岡県	7	5.1%	1	1.3%	3	6.7%	1	6.7%	12	4.4%	
その他	25	18.1%	17	22.1%	8	17.8%	2	13.3%	52	18.9%	
結婚											
はい	1	.7%	3	3.9%	1	2.2%	0	.0%	5	1.8%	.380
いいえ	136	99.3%	74	96.1%	44	97.8%	15	100.0%	269	98.2%	
健康保険											
国民健康保険	39	28.5%	26	34.2%	15	33.3%	3	20.0%	83	30.4%	.610
職場の健康保険	82	59.9%	45	59.2%	25	55.6%	12	80.0%	164	60.1%	
被扶養者の健康保険	12	8.8%	2	2.6%	4	8.9%	0	.0%	18	6.6%	
加入していない	4	2.9%	3	3.9%	1	2.2%	0	.0%	8	2.9%	
性的指向											
ゲイ	120	87.0%	63	81.8%	36	80.0%	13	86.7%	232	84.4%	.371
bisexual	18	13.0%	14	18.2%	8	17.8%	2	13.3%	42	15.3%	
わからない	0	.0%	0	.0%	1	2.2%	0	.0%	1	.4%	
生涯の受検経験											
ない	21	15.2%	20	26.0%	5	11.1%	2	13.3%	48	17.5%	.122
ある	117	84.8%	57	74.0%	40	88.9%	13	86.7%	227	82.5%	
定期的な検査の受検											
定期的を受けている	70	60.3%	30	53.6%	17	42.5%	9	69.2%	126	56.0%	.179
定期的を受けていない	46	39.7%	26	46.4%	23	57.5%	4	30.8%	99	44.0%	
受検の決定											
自分で決めた	121	87.7%	69	89.6%	44	97.8%	13	86.7%	247	89.8%	.264
人から誘われた	17	12.3%	8	10.4%	1	2.2%	2	13.3%	28	10.2%	
検査の受検理由											
自分が感染している可能性があるから	38	27.5%	25	32.5%	17	37.8%	5	33.3%	85	30.9%	.602
他の人に感染させたくないから	66	47.8%	34	44.2%	28	62.2%	10	66.7%	138	50.2%	.129
定期的な検査を受けているから	56	40.6%	19	24.7%	20	44.4%	9	60.0%	104	37.8%	.018
情報に触れて自分のことが心配になったから	19	13.8%	15	19.5%	4	8.9%	0	.0%	38	13.8%	.145
友達と一緒に受けることにしたから	15	10.9%	18	23.4%	11	24.4%	1	6.7%	45	16.4%	.029
恋人と一緒に受けることにしたから	6	4.3%	6	7.8%	2	4.4%	0	.0%	14	5.1%	.539
コンドームを使わないオーラルセックスをしたから	26	18.8%	25	32.5%	17	37.8%	4	26.7%	72	26.2%	.036
コンドームを使わないアナルセックスをしたから	11	8.0%	33	42.9%	16	35.6%	7	46.7%	67	24.4%	.000
体調に変化があり、感染の不安を感じたから	4	2.9%	6	7.8%	3	6.7%	0	.0%	13	4.7%	.290
性感染症にかかったから	1	.7%	2	2.6%	0	.0%	1	6.7%	4	1.5%	.193
新しい恋人ができたから	10	7.2%	6	7.8%	2	4.4%	0	.0%	18	6.5%	.641
身近な人の感染がわかったから	6	4.3%	3	3.9%	2	4.4%	2	13.3%	13	4.7%	.451
ただ単に知りたいから	46	33.3%	33	42.9%	13	28.9%	3	20.0%	95	34.5%	.214
その他	2	1.4%	1	1.3%	0	.0%	0	.0%	3	1.1%	.836

表 4-2 その場限りの相手とのコンドーム使用の行動ステージと関連要因(知識、予防介入認知)

	その場限り相手とのコンドーム使用の行動ステージ				合計	カイ二乗検定
	行動期・維持期 N=138	準備期 N=76	関心期 N=45	無関心期 N=15		
知識-HIV即日検査では偽陽性あり						
正解	68 49.6%	38 50.0%	22 48.9%	8 53.3%	136 49.8%	.804
不正解	8 5.8%	7 9.2%	6 13.3%	1 6.7%	22 8.1%	
わからない	61 44.5%	31 40.8%	17 37.8%	6 40.0%	115 42.1%	
知人のHIV感染者の存在						
いる	56 40.6%	24 31.6%	19 42.2%	8 53.3%	107 39.1%	.409
いると思う	24 17.4%	15 19.7%	9 20.0%	0 .0%	48 17.5%	
いないと思う	26 18.8%	12 15.8%	7 15.6%	2 13.3%	47 17.2%	
いない	9 6.5%	8 10.5%	1 2.2%	3 20.0%	21 7.7%	
わからない	23 16.7%	17 22.4%	9 20.0%	2 13.3%	51 18.6%	
過去6か月のHIVや性感染症の不安						
よくあった	3 2.2%	0 .0%	1 2.2%	1 6.7%	5 1.8%	.135
時々あった	48 34.8%	37 48.7%	25 55.6%	4 26.7%	114 41.6%	
あまりなかった	60 43.5%	30 39.5%	14 31.1%	6 40.0%	110 40.1%	
全くなかった	27 19.6%	9 11.8%	5 11.1%	4 26.7%	45 16.4%	
HIVや性感染症についての相談相手						
相談できる相手や場所を知っている	49 35.5%	25 32.9%	15 33.3%	7 46.7%	96 35.0%	.632
相談できる相手はいるが場所は知らない	19 13.8%	10 13.2%	11 24.4%	1 6.7%	41 15.0%	
相談できる相手はいないが場所は知っている	29 21.0%	21 27.6%	9 20.0%	2 13.3%	61 22.3%	
両方知らない	41 29.7%	20 26.3%	10 22.2%	5 33.3%	76 27.7%	
過去6か月の商業施設の利用						
ゲイバー・ピアンバー	102 73.9%	50 64.9%	28 62.2%	8 53.3%	188 68.4%	.192
ゲイナイト	66 47.8%	32 41.6%	25 55.6%	5 33.3%	128 46.5%	.336
ゲイショップ	55 39.9%	20 26.0%	12 26.7%	5 33.3%	92 33.5%	.144
有料ハッテン場	73 52.9%	51 66.2%	25 55.6%	11 73.3%	160 58.2%	.159
野外系ハッテン場	17 12.3%	11 14.3%	5 11.1%	2 13.3%	35 12.7%	.960
発展場で有名な銭湯等	28 20.3%	20 26.0%	11 24.4%	6 40.0%	65 23.6%	.343
全て利用無	8 5.8%	4 5.2%	4 8.9%	2 13.3%	18 6.5%	.596
活動認知1 ALNのWEBサイト						
見た	29 21.3%	19 25.0%	5 11.6%	3 20.0%	56 20.7%	.377
認知のみ	50 36.8%	21 27.6%	12 27.9%	5 33.3%	88 32.6%	
知らない	57 41.9%	36 47.4%	26 60.5%	7 46.7%	126 46.7%	
活動認知2 ALNの配布するコンドーム						
受け取った	45 33.1%	27 35.5%	13 30.2%	3 20.0%	88 32.6%	.321
知っているが受け取ったことはない	30 22.1%	14 18.4%	4 9.3%	5 33.3%	53 19.6%	
知らない	61 44.9%	35 46.1%	26 60.5%	7 46.7%	129 47.8%	
活動認知3 コミュニティペーパーHANA						
読んだ	36 26.5%	19 25.0%	10 23.3%	3 20.0%	68 25.2%	.975
知っているけれど読んだことはない	26 19.1%	17 22.4%	11 25.6%	3 20.0%	57 21.1%	
知らない	74 54.4%	40 52.6%	22 51.2%	9 60.0%	145 53.7%	
活動認知4コミュニティセンターrise						
行った	31 23.0%	15 20.0%	12 27.9%	2 13.3%	60 22.4%	.517
知っているのみ行ったことはない	51 37.8%	28 37.3%	14 32.6%	3 20.0%	96 35.8%	
知らない	53 39.3%	32 42.7%	17 39.5%	10 66.7%	112 41.8%	
NLGR+2014に行くか						
すでに行ってきた	61 44.5%	31 40.3%	18 40.9%	3 20.0%	113 41.4%	.507
これから行く予定	62 45.3%	41 53.2%	22 50.0%	11 73.3%	136 49.8%	
行かない	14 10.2%	5 6.5%	4 9.1%	1 6.7%	24 8.8%	
特定相手とのゴム使用ステージ						
行動期維持期	89 70.1%	8 11.8%	2 4.8%	0 .0%	99 39.6%	.000
準備期	12 9.4%	35 51.5%	3 7.1%	0 .0%	50 20.0%	
関心期	17 13.4%	18 26.5%	31 73.8%	3 23.1%	69 27.6%	
無関心期	9 7.1%	7 10.3%	6 14.3%	10 76.9%	32 12.8%	
セフレとのゴム使用ステージ						
行動期維持期	113 86.3%	8 11.9%	0 .0%	0 .0%	121 48.0%	.000
準備期	9 6.9%	44 65.7%	2 4.9%	0 .0%	55 21.8%	
関心期	9 6.9%	13 19.4%	34 82.9%	1 7.7%	57 22.6%	
無関心期	0 .0%	2 3.0%	5 12.2%	12 92.3%	19 7.5%	

MSM 及びゲイ・バイセクシュアル男性を対象とした地域間比較 (2)
～Community-Based Organizationによる HIV 予防啓発活動のプログラム評価～

研究分担者：本間隆之（山梨県立大学看護学部 講師）、金子典代（名古屋市立大学看護学部）
研究協力者：荒木順子（公益財団法人エイズ予防財団/特定非営利活動法人 akta）、岩橋恒太（特定非営利活動法人 akta）、佐久間久弘、木南拓也（公益財団法人エイズ予防財団/特定非営利活動法人 akta）、柴田恵、阿部甚兵、大島岳（特定非営利活動法人 akta）、市川誠一（名古屋市立大学看護学部）

研究要旨

本研究班では、平成 23 年度から 3 年にかけて各地域の MSM の予防行動の実態把握とゲイ CBO が実施する介入評価のためのインターネット横断調査システムである Gay Community based Quest (以下、GCQ アンケートと表記) を開発するとともに、Community-Based Organization (CBO) が実施しているアウトリーチ活動を、プログラムとして記述することにより評価軸を検討してきた。

本年度は、新宿二丁目のある首都圏地域において、20 代を中心とする若年ゲイバー顧客の HIV 感染予防行動の実態、地域間移動と移動先での性行動の実態を明らかにするとともに、CBO による HIV 予防啓発プログラムの認知と受け入れ、コミュニティ感覚に関する評価を、GCQ アンケートシステムを用いて実施した。新宿二丁目の CBO である akta がアウトリーチにより関係性が構築できている介入店舗利用者の回答と、現在までアウトリーチを実施していない店舗利用者の回答を比較した。HIV 感染予防行動に有意な差はみられなかったが、友達や知り合いに HIV に感染している人がいるかという認知、コミュニティに関する安心感や愛着といったコミュニティ感覚に有意差が見られた。

A. 研究目的

これまでのロジックモデルを活用したプログラム評価研究から、CBO は新宿二丁目を中心としたゲイ・バイセクシュアル男性を対象に、HIV/AIDS の予防啓発情報（メッセージ）を伝えるために、新宿二丁目の文化や価値観を尊重し、自分たちと同じ仲間による活動だと感じてもらうことによって、“ピア性”のあるメッセージが受け入れられるというモデルを基に活動を展開していることが明らかになっている。

本研究ではプログラム評価の成果に基づき、若年ゲイバー顧客の HIV 感染予防行動の

実態、地域間移動と移動先での性行動の実態、CBO が想定する予防啓発メッセージが伝わる基盤となる「文化や価値観の尊重」及び「コミュニティ感覚」というコンセプトが、CBO が介入している対象に存在するか、存在するとすればどの程度かを確認することを目的として調査を実施した。

B. 研究方法

調査実施

CBO の介入地域である新宿二丁目の商業施設を利用するゲイ・バイセクシュアル男性を対象に、オンラインで回答する質問票調査を

行った。参加者のリクルートは、協力が得られた店舗において、調査実施を告知するポスターを掲示するとともに、調査サイトへのリンクである QR コードを記したカードを配布した。調査サイトへのリンクはカードにのみ記載し、インターネット等でリンクを掲示し参加者を募集することは行わなかった。配布した店舗は、これまで CBO によるアウトリーチ活動で啓発資材等を配布していた店舗のうち、若い人が多く利用する店舗とした（介入実施店舗）。さらに、これまで CBO によるアウトリーチを行っていない店舗 2 店に対して、今回初めて調査ポスターとカード配布への協力を依頼して配布を行った（介入未実施店舗）。調査期間の終盤には、回答参加者を増やすためにアウトリーチ実施店舗において、CBO スタッフや店舗スタッフが店舗利用者に対してカードを手渡し、調査参加の呼びかけを行った。

回答は対象が保有する携帯端末等からインターネット上の質問サイトへアクセスしてもらい、回答するものとし、トップページにおいて回答することにより調査趣旨を理解し、参加することに同意したものとみなす旨、説明を行った。調査期間は平成 27 年 2 月から 3 月末とした。なお、本研究の研究計画については名古屋市立大学看護学部倫理委員会より承認を得て実施した（承認番号 14025-2）。

質問項目

年齢、新宿二丁目を訪れる頻度、HIV 感染予防行動、地域間移動と移動先での性行動、CBO による HIV 予防啓発プログラムの認知と受け入れ、新宿二丁目に対する愛着などを含むコミュニティ感覚に関して、選択形式で尋ねた。

分析方法

質問項目ごとに記述集計を行った。介入実施店舗の回答者群と未介入店舗の回答者群に

分け、割合をカイ二乗検定で比較した。検定の実施にあたっては適宜多肢選択を 2 区分することによって、検定を行った。

C. 研究結果

調査参加者の属性

調査参加者は 20 歳代が 64.9%であり、20 歳代を中心とした調査目的に沿った参加者であった。CBO の介入地域である新宿二丁目を訪れる頻度は、月に 1 回以下が 26.4%であるのに対して、1 週間に一回程度以上訪れると回答した人は 57.4%と半数以上が比較的頻回に当該地域を訪れていることが分かった。過去 6 か月以内に利用した施設は、調査サイトであったバーの他には、ゲイ向け出会いアプリ（71.6%）を利用している人が多くいる。また、男性限定のクラブ（38.5%）や有料のハッテン場（31.1%）の利用は 4 割以下であり、商業施設の種類によって利用者の特性が異なる可能性があり、調査実施サイトによって調査参加者の特性が異なることが推察される。

HIV 感染予防行動

生涯の HIV 抗体検査受検割合は 75.7%、過去 1 年間の同受検割合は 54.1%であった。過去 1 年間に受検した場所は、保健所（51.3%）が最も多かった。今回の調査では郵送検査を利用した人はいなかった。

一番最近のセックスをする前に、コンドームを使いたいと思っていた（55.4%）、相手とコンドーム使用について意思を確認した（54.1%）、アナルセックスでコンドームを使った（58.1%）と 5 割強の人が、コンドームを使った予防行動に積極的な認知を持ち、行動をしていた。

地域間移動と移動先での性行動

国内や海外の旅行先でセックス相手と出会うために使用したものでは、ゲイ向けアプリ